慶應義塾医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64596
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間 午前9時～午後1時
●電話(3353)1211(大代表)

次期病院長 相川直樹教授に決定

次期病院長選出に向けての学内諸手続は昨報のように七月に始まり、大学病院経営ボードからの諮問から三名の候補者選出を経て、ボード会議提案から最終候補者が決定し、その後、塾長による病院長の任命手続（大学病院長選任規程第二条病院長の任命）が完了した。八月三十一日開催の第二七回大学病院経営ボード会議において、塾長から相川直樹教授（現病院長）が次期病院長として引き続き、その任にあたることとなった旨、報告された。任期は平成七年十月一日から一年間である。相川病院長とともに大学病院経営ボード会議を経て、小川聡（循環器内科教授、49回）、戸山芳昭（整形外科教授、54回）、吉村泰典（産婦人科教授、54回）が任命された。

二〇〇一年五月に西島一郎（総合改革プラン（二〇〇一～二〇〇六年））二〇〇二年七月に義塾経営ボードが発足してから、まず二〇〇五年（二〇〇二年七月）までに、新しい「大学病院経営ボード」を設置し、「病院経営の基本方針」を作成すること、また、「大学病院経営の改革」として、「経営と独立の学校組織」の検討を進めること、「大学病院運営の改革」として、「未来の先進医療」を開発していくことが期待されていた。

義塾全体の運営にとっても極めて比重の重い課題である。この方針の。和一のもとに医学部・大学病院職員のもとに、エネルギーを集中し、新しい医療の領域において引き続いて義塾が歴史に大きな貢献の役割を果たしていくためには、大学病院運営における認識を解決することが、求められていた。

独立自尊の精神と挑戦一致団結の。和一のもとに医学部・大学病院職員のもとに、エネルギーを集中し、新しい医療の領域において引き続いて義塾が歴史に大きな貢献の役割を果たしていくためには、大学病院運営における認識を解決することが、求められていた。

また、これからの医学部・大学病院の発展には、新棟の建設が欠かせない。また、新棟の建設に関しては、「和」の。和一のもとに医学部・大学病院職員の強い意思が求められて初めて、実現できるものであり、今後